

予防医療の推進について



平井 玲子 議員



質問 市として健康寿命延伸のためにやっている予防医療の取組は。

答弁 高齢者を対象とした予防接種として、高齢者用肺炎球菌、高齢者インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、带状疱疹ワクチンの費用助成を行っています。また、国民健康保険加

入者及び後期高齢者医療制度加入者に対し、健康診査、癌検診などを行っています。

質問 胃癌リスク検診を本市の中学生の1学年のみに公費で実施した場合、予算額は。

答弁 令和7年度胃癌リスク検診の1人当たりの検診費用2500円を基に、中

学2年生561人を対象と仮定しますと、140万円程度と見込まれます。

質問 中学生への胃癌リスク検診は、将来の胃癌発生リスクを減少させるだけではなく、若いうちに、癌に対する正しい知識を身に付けられると考えます。親世代への意識啓発にもつながり、大人の胃癌リスク検診、胃癌検診の受診率アップにもつながることが期待できます。中学生に対する胃癌リスク検診実施の考えは。

答弁 検査の必要性や費用対効果など、先進事例、近隣自治体の取組を踏まえ、研究していきたいと考えています。

質問 RSウイルスについて、市の認識は。

答弁 RSウイルス感染症と言われる急性の呼吸器感染症を引き起こします。基礎疾患のある高齢者は急性の重症肺炎を起こす原因になるものと認識しています。

質問 疾患の周知と高齢者における感染予防の注意喚

起を、ホームページ上で積極的に行っていただくよう要望します。また、RSウイルス感染症を予防するワクチンが国内で販売されています。市として高齢者に対するRSウイルスワクチンの接種費用を助成する考えは。

答弁 有効性や費用対効果、近隣自治体の動向などを確認しながら研究していきたいと考えています。



災害級の猛暑における熱中症等への取組について



堀口 きく枝 議員



質問 今年の夏は観測史上最も暑い夏でしたが、本市の熱中症による救急搬送者数を教えてください。

答弁 今年度8月末現在で83人の方が搬送され、既に昨年の人数を超えています。年齢別では、65歳以上の割合が最も高く、全体の5割から6割を占めています。

質問 本市のクーリングシエルト指定の取組、周知方法を教えてください。

答弁 本市では、危険な暑さからの避難体制の確保を図るため、今年6月から市内の公共施設17か所、民間施設6か所、合計23か所のクーリングシエルトを指定し、市公式ホームページ

や広報紙等で周知を図っています。

質問 高齢者の熱中症予防対策として、近隣では大泉町、栃木県佐野市がエアコンの設置費用補助制度を実施しています。本市においても、高齢者世帯を対象としたエアコン設置費用補助制度の実施を要望したいと思いますが、本市の考えを教えてください。

答弁 現在のところ本市ではエアコン設置費用の補助制度はありませんが、県内

や近隣自治体の取組を参考にしながら対応を検討していきたいと考えています。

質問 職場や労働環境における事業者による熱中症対策について、労働安全衛生規則の改正により、令和7年6月に罰則付きで義務化されました。企業や事業所が対策を行うには、物価高騰の中、様々なコストがかかります。とても大変です。各地方自治体で国とは別に独自の熱中症対策支援制度を設けているところがありま

すが、本市における支援制度実施の考えを伺います。

答弁 国の制度や基準に適切に対応できるよう情報提供と周知啓発に取り組んでいます。今後は事業者が熱中症対策や労働環境の改善に継続的に取り組めるよう先行事例を参考に、新たな支援メニューの創設について検討を進めていきます。

要望 中小企業の方や個人事業所の方等の負担軽減のため、熱中症対策支援補助金の創設を要望いたします。